

JWSF

Japan Wheelchair
Seating Foundation

日本車椅子シーティング財団

財団通信 2020 年秋号

2020 年 10 月 1 日 第 6 号

一般財団法人日本車椅子シーティング財団 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-1 角田ビル 2F
TEL03-6403-3075 <http://www.wheelchair-seating.org/> e-mail:info@wheelchair-seating.org

INDEX 本号の内容

1, 「シーティング」
と「身体拘束」の関
係についての調査研
究事業がいよいよス
タート 高木憲司

2, 北米における
「Assistive
Technology
Professional 制度」
および「Seating and
Mobility Specialist
制度」について
半田隆志

3, シーティング～
「世界の話」
川畑善智

4, 財団活動カレンダー

5, 編集後記



1, 「シーティング」と「身体拘束」の関係についての調査研究事業がいよいよスタート

(一財) 日本車椅子シーティング財団 評議員長 高木憲司

皆様、いつも当財団の趣旨にご賛同、ご協力を賜り感謝しております。

当財団では、「シーティング」の普及を通して、その技術を必要とする人すべてに快適な生活が送れるよう支援していきたいという信念に基づき活動しております。ただ、一言で「シーティング」と言っても、その概念には幅があり、理解が不十分なまま「単にベルト類を装着して座らせること」が、逆に「身体拘束(=身体的虐待)」にあたるとして、介護現場等での車椅子ベルト類の排斥運動につながり現在に至りますが、これには功罪があると考えています。つまり、行き過ぎた「車椅子ベルト類の禁止」により、本来ベルト類が必要な体幹機能障害のある方等についても「身体拘束になること」を恐れて、適切な座位を取らせずベッドに寝かせきりになっている事例が出てきています。こういった事例が多数あるとすれば、別の意味で身体拘束を生じさせていることになり、実際、「身体拘束=車椅子ベルト類の装着」というステレオタイプのあてはめによる行政の指導監査が行われているとの情報もあります。当事者たちに必要なことは「適切な座位保持」であり「単なるベルト類装着禁止」ではないはずです。当事者たちへの人権侵害ともなっているかもしれない、見逃すことはできない段階となっています。

この我々の訴えが「第 12 回 シーティングで自立支援と介護軽減を実現する議員連盟会議」で取り上げられ、厚生労働省を動かし、車椅子における座位保持等と身体拘束との関係についての調査研究が実施されることになりました。まずは現場での混乱の実態を把握した上で、どのような対応が必要か検討されることになると思います。当財団としても、この調査研究事業に最大限の協力を行うことで、「シーティング」の普及に一步近づくことを期待しておりますので、引き続き、皆様方のご理解ご支援を賜れば幸いです。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

ご存知の方や、関係されている方もいらっしゃると思いますが、北米には、Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of North America (RESNA: 北米リハビリテーション工学協会) という協会があります(筆者も会員です)。この RESNA は、「個々の障害者のニーズに合わせて、科学・工学・テクノロジーの臨床現場への応用を促進する」ことを主な目的として 1979 年に設立された学際的な団体であり、翌 1980 年に、カナダのトロントにて正式な活動を開始しました。リハビリテーション工学の分野において、世界をリードしている団体の 1 つであると言えます。この RESNA が実施している事業の 1 つに、「資格認定」があります。この RESNA が認定する資格は、現在、「Assistive Technology Professional (ATP: 支援技術専門家)」、「Seating & Mobility Specialist (SMS: シーティング・モビリティ・スペシャリスト)」

「Rehabilitation Engineering Technologist (RET: リハビリテーション工学技術者)」の 3 種類があります。本稿では、ATP および SMS について、その概要を紹介します。

ATP は、「障害者のニーズを分析する能力」、「障害者が、自身に適した支援技術 (Assistive technology) を選択する際に、それをサポートする能力」、「選択された支援機器の使用方法をトレーニングする能力」が一定水準以上であると認められ、また RESNA が規定する実務規定および倫理規定を遵守すると誓うことで、取得できます(図 1) すなわち、ATP は、「狭義の、ある特定分野」の専門性を示すものではなく、支援技術全般に対する広範な知識・能力があることを示す資格であると言えます。さて、支援機器(福祉用具)のうち、車椅子は、その使用者が多いこと等の観点から、「主要な支援機器」の 1

つとみなされることがありますが、その車椅子に座ったときの座位姿勢を最適化すること(シーティング)および車椅子での移動性(モビリティ)を最適化することは、車椅子使用者の QOL(生活の質)向上のために重要であるとされています。そのシーティングとモビリティの専門家として RESNA が認定するのが、SMS です。SMS は、「障害者のシーティングとモビリティを分析する能力」、「支給制度に関する知識」、「支援(介入)を実施する能力」、「支援の効果を分析し、フォローアップする能力」が十分であると認められると、取得できます(図 2)。すなわち、SMS は、「シーティングとモビリティ」という特定分野の専門的能力を示す資格となっています。SMS を取得するためには、まず ATP を取得する必要があることから、SMS は、ATP より上位の資格であると言えます。

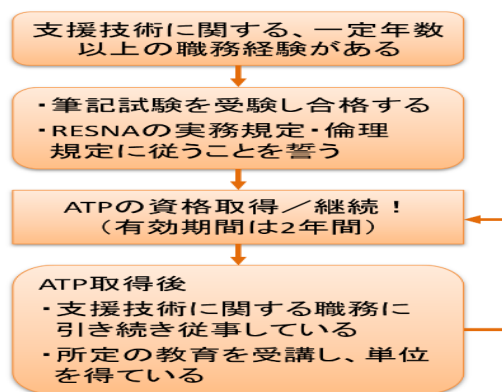


図 1 ATP の取得手順

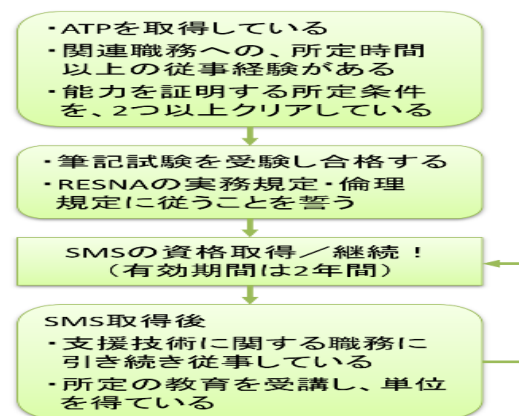


図 2 SMS の取得手順

これらの資格を得る手順ですが、ATP については、まず、最低でも、「6 年間で 1,000 時間」以上の、支援技術に関連する職務の経験が必要です（この条件は、保有している学位等によって異なります）。この条件を満たしていれば、筆記試験（多肢選択式）を受けることができます。この筆記試験の出題範囲は「支援技術全般」ですが、その概要は、RESNA のウェブサイトで公開されています（「ニーズの分析方法」や「支援の実施方法」等について出題されるようです）。なお、筆記試験の合格率は、およそ 50%~70%とのことです。また、SMS についてですが、この資格を得るためには、先述のとおり、ATP の資格を得る必要があります。そして、シーティングおよびモビリティに関連する職務への所定時間以上の従事経験と、この分野における能力を証明する所定の条件（障害者支援活動への従事経験や、査読付き論文または書籍の出版経験、規格開発経験等の中から、いずれか 2 つ。）をクリアしている必要もあります。これらを全て満たしていると、SMS の筆記試験を受けることができ、合格すると SMS を取得できることとなります。

なお、これらの資格には、2 年間の有効期限が定められています。そして、2 年経過後に資格を更新するためには、「2 年間の職務内容」および「所定の教育を受け、単位を取得していること（図 3）」を記載した申請書を提出し、認められる必要があります。すなわち、これらの資格を保持し続けるためには、継続して関連する仕事に従事し、また教育を受け続ける必要があるということになります。このシステムによって、ATP および SMS の価値が担保されていると言えます。なお、ATP の資格認定システムは、アメリカの認証機関の基準に従って厳格に作られているそうです。

RESNA のパンフレットには、「支援技術の提供者の中には、倫理観や知識が欠如しているため、障害者に、不適切な機器・サービスを販売する者もいるが、ATP や SMS の資格を有する専門家に支援を依頼すれば、そのような被害を避けることができる」旨が記載されています。このように、RESNA の資格認定制度は、障害者を守ることに繋がっていると言えそうです。また、これら資格の保有者にとっては、企業等への就職（図 4）の際に有利になったり、キャリアアップにつながったりという利点があるようです。

本稿の内容の多くは、RESNA のウェブサイトから引用しました。このウェブサイトには、より詳細な情報も記載されていますので、ぜひ一度、アクセスしていただけたらと思います。



図 3 受講した教育の内容と単位を証明する証書の例



図 4 企業に所属している SMS の仕事の様子

世界中で猛威を奮っているC O V I D- 19の影響で、今年の展示会は軒並み中止や延期を余儀なくされている。最新の福祉機器の情報収集の場でもあったH C Rも中止となり、最新機器の情報収集もままならない。そこで財団事務局が今年3月にバンクーバーで開催されたISS(International Seating Symposium)に参加した時の様子を展示会場の最新の機器をメインで報告したい。



今年のISS展示は単なる車椅子と電動車椅子の展示ではなく、シーティングシステムとのコラボレーションの形で多くのメーカーが出展をしていた。サンライズメディカルやインバケアなど大手メーカーは、意欲的な新車の発表を行っていた。サンライズメディカルは「Qシリーズ」、インバケアは「AVIVA」という新しいブランドを立ち上げ、多機能型電動車椅子の新展開を開始した。北米市場ではペルモビールのシェアが高いが、よりコンパクトで車重も軽い電動車椅子が多かった印象である。日本でも今後順次販売される見通しである。クッションは日本でもお馴染みのJAYやソロ、マトリックスなどが出展。



財団活動カレンダー

- 2020年6月4日 シーティング議連プロジェクトチーム第3回会合
- 2020年6月15日 シーティング議連開催 大島老健局長以下厚労省10名参加
- 2020年7月16日 財団打ち合わせ
- 2020年7月20日 議連高橋先生訪問打合せ
- 2020年8月6日 財団臨時理事会
- 2020年8月29日 財団 第1回「介護保険法にシーティングを位置付ける検討会」開催 11名出席 オンライン
- 2020年9月24日 財団 第2回「介護保険法にシーティングを位置付ける検討会」開催 11名出席 オンライン

2020年9月30日 文部科学省副大臣室にて
高橋ひなこ文部科学副大臣表敬訪問



編集後記 それにしても目に見えないウイルスの脅威は凄まじいものがありますね。こういう時だからこそ、今できることを一つずつ着実にやることを念頭に地道に活動していきたいです。皆様、どうかご安全に！
財団事務所移転につき電話番号が変わりました(表紙)